

阿賀町小教研音楽研究部 活動報告

1 研究主題 「楽しい音楽活動の創造」

2 研究内容・方法

- (1) 楽しい音楽活動にするための技法や指導ポイントを紹介し合い、実習する。
- (2) 全員で指導案検討をし、授業研究を行う。
- (3) 実技講習会を行い、外部講師を招いて指導していただく。

3 活動の実際～授業研究から～

題材名 「音のたかさにきをつけてうたおう」(2学年)

教材 ドレミあそび ドレミのうた かっこう かえるのがっしょう
ドレミであそぼ せんりつあそび

題材のねらい

- ・ 音の高さに気をつけながら、階名で模唱や暗唱して音程感を養うようにする。
- ・ 声の出し方や圧音に気をつけながら歌ったり、階名暗唱をもとに、きれいな音で楽器を演奏したりすることができるようにする。

本時のねらい(9/10)

音を楽しみながら選び、旋律を作ることができる。

(1) 本時の概要

まず、ド～ソまでの5つの音から選んだ音をつないで簡単な旋律を作り、鍵盤ハーモニカで演奏しながら音を音楽にしていくことをたっぷり楽しませる。そして、いくつかできた旋律の中から気に入った旋律を選んで、選んだ理由を自分の言葉で書き表し、発表する。新教育課程の中で重視されている「言語活動」を意識した公開授業であった。

一人一人が音を選んで、鍵盤ハーモニカで旋律を演奏して、確かめたり修正したりしながら授業が進められた。

(2) 協議会で話し合ったこと

- ・ 視覚的にわかるように音の選び方を色分けし、丁寧に手順を説明したことで、どの子も迷うことなく旋律作りに取り組むことができていた。
- ・ さっと音を選んですぐ演奏してみる子、じっくり吟味し、何度も鍵盤ハーモニカで弾いて確かめながら作り上げていく子とやり方は様々だが、一人一人が自分の旋律を作ることができ、満足感を得ることができた。
- ・ 作った旋律の中から自分のお気に入りを選び、理由を言葉で表す活動では、「どうしてか」という言い方を使って書き表す児童が多かった。日頃の学習が生かされていると感じた。
- ・ 理由として「明るい」「元気」等の言葉を使う児童が多く見られた。初めは拙い言葉でも言語活動を積み重ねていくことが大切。積み重ねの中で、音楽の時間に使う言葉(音楽の言葉)を増やしていく必要があるのではないか。
- ・ 導入の既習曲を歌ったりリズム遊びをしたりする活動では、みんなとても楽しそうに動きながら表現していて、音楽が大好きなことが伝わってきた。
- ・ ひとりぼっちの子がいないように声をかけてあげられる雰囲気がとても良い。

